

台風19号に依る浸水被害の原因究明と 賠償、再発防止を求める請願

川崎市議会議長 殿

請願趣旨

2019年10月、日本列島を襲った台風19号は、川崎市民にも大きな被害をもたらしました。川崎市の管理する多摩川の5か所の排水樋管(山王、宮内、諏訪、二子、宇奈根)のゲートが閉じられなかったため逆流した泥水は、広範な地域を襲い、甚大な被害を引き起こしました。

川崎市当局は、「逆流したらゲートを閉める」という排水樋管操作要項や国土交通省の通達に反して、逆流が始まってゲートを閉鎖しなかったことについて、「操作手順書に従っていて問題なかった」と言い、誤ちを認めようとしません。

川崎市当局は、現場の専門職員を中心に第三者の専門家を加えて検証するとしていますが、不合理な説明を繰り返す当局の自己検証によっては、真実を明らかにし、自らの責任を認める検証結果は期待できません。行政と利害関係のない第三者の河川専門家、法律家のほか、市民(被災者の代表等)によって構成された、被災原因の検証委員会を川崎市議会として設置し、浸水被害の原因を明らかにし、責任の所在を明確にするべきです。

多くの被災者は自己負担で復旧と生活再建のための多額の費用をまかなっています。しかしこの災害はあきらかに人災です。川崎市は、自らの責任を前提とした、完全な賠償を行うべきです。

地球温暖化の影響で水害が激甚化するなか、被災地域の住民は、来夏以降も浸水被害に脅かされるのではないかと、不安を抱えながら暮らしています。川崎市は、今回の原因の検証結果を待たず、全ての樋門にゲートポンプを設置するなど、確実で合理的な再発防止策を示し、予算化し、今できることから着手し、二度と水害が起こらないよう対策を講じてください。

多摩川に沿って南北に長い川崎市は、あらゆる地域に浸水被害の危険が潜んでいます。川崎区の河港水門は文化財を理由に堤防が低かったため周辺地域が浸水しました。高津区平瀬川、多摩区三沢川周辺も、バックウォーター現象により浸水し、住民の命まで奪われています。今回の教訓を生かし、全ての浸水危険地域に有効な対策を講じることが急務です。

被災地域の想いを誠実に受け止め、被災者の生活を再建し、全ての川崎市民が水害の危険に脅かされず安心して暮らせる街とするため、以下の請願事項四点について速やかな実施を求めます。

請願事項

- 1 台風19号による浸水被害の原因究明は、市議会として第三者検証委員会を設置して行うこと。
検証委員会は、行政と利害関係のない河川、法律等の専門家のほか、市民(被災者地域の代表等)によって構成すること。
- 2 川崎市は、浸水被害の責任を認め、被災者の生活再建のため完全賠償をすること。
- 3 樋門操作の手順を国土交通省の通達に沿った内容に速やかに変更すると共に、ゲートポンプを設置するなど、二度と水害が起こらない確実で合理的な再発防止策を示し実行すること。
- 4 市内全ての洪水危険地域を総点検して洗い出し、豪雨への抜本的対策を速やかに講じること。

氏名	住所

*署名は目的(請願)以外に使用されることはありません。